



2019年5月 第56号

「白子川源流・水辺の会」会報紙

□定例活動 報告

◆「WE LOVE 白子川の会」の活動

◆白子川講演会 報告

◆白子川源流域の放射線測定 報告

■定期総会のお知らせ

■「身近な川の全国一斉調査」のお知らせ

白子川源流のマルバヤナギ

源流にそびえる二株のマルバヤナギ。樹齢は不明。

人づてに聞けば戦後には細い若木として見かけたとか。

さすれば推定樹齢八〇年か。

マルバヤナギが見てきた白子川の姿はどんなだったか。さらさらと流れる小川。大雨の時は満々と水を流していたか。いつのことだろう……コンクリートの護岸になったのは。

威風堂々とそびえる現在の姿は、幾多の危機を乗り越えてきたのだろう。見上げるような大木は、見上げるだけで心が洗われるように感じられる。これからもずっと見守られるようなきがする。



※区の担当者によるとマルバヤナギの樹齢は不明だが、樹木医の推測では100~130年とのこと。(編集部)

リレー表紙 11 (文・写真/桑 康博)



定例活動報告

12月 1月 2月 3月

雨さん、ふってくださいな～
おたまちゃん、まってまーす

【水質調査】

測定地点	月日		12/23	1/27	2/24	3/24
	天気					
	気温 °C		10.6	7.0	13	15
源流部	項目					
	水温 °C	—	—	—	—	
	水深 cm	—	—	—	—	
	COD mg/l	—	—	—	—	
pH		—	—	—	—	
井頭橋	項目					
	水温 °C	10.1	—	—	9.1	
	水深 cm	6	—	—	5	
	COD mg/l	4	—	—	8	
pH		7.2	—	—	6.4	
井頭～穴の橋の中間	項目					
	水温 °C	16.0	7.3	12.4	17.5	
	水深 cm	28	33	8	21	
	COD mg/l	2	6	4	4	
pH		6.3	6.5	6.9	5.2	

●COD とは、水の汚れ(有機物)を示す指標で、数値が大きいほど汚れている。当会では低濃度用簡易キットで指標を判断している。2は最低値できれいな水。4～6は少し汚れている。8以上は汚れている。

●pH とは、酸性とアルカリ性を示す指数で、pH7 が中性。7より大きいとアルカリ性、小さいと酸性。

絶滅危惧種「ミツガシワ」

西東京市の O さんが譲ってくださったミツガシワが元気に育っています。ミツガシワはすべての府県で絶滅危惧種に指定しているほどの貴重種で、氷河期には北半球全域に分布していました。漢字で「三柏」と書き、カシワの葉に似た小葉3枚からなることに由来しています。大切に見守りましょう。



地雨がほしい！

今年の冬の雨量が少ないため「冬涸れ」のまま5月に入ってしまいました。少雨と高温が心配です。いったん3月中旬に川底がほぼ隠れるほどに回復しましたが、長続きしませんでした。

4月の定例活動では、クツのまま白子川探検ができるとあって、親子や子どもたちが次々と川に降りました。動植物のためにも一刻も早く(ゲリラ豪雨ではなく)地雨がほしい！ (菅沢 博)



活動記録

- 1/19(土) 講演会「身近な水環境の全国一斉調査と川の問題」
- 20(日) 「WE LOVE 白子川の会」の定例活動
- 27(日) 定例活動
(井頭池護岸にヘデラ植え付け)
- 2/ 7(木) 小学生向け小冊子の編集作業本格化
- 16(土) 白子川講演会
- 17(日) 「WE LOVE 白子川の会」の定例活動
- 24(日) 定例活動

- 3/14(木) “カエル道” 井頭池護岸に設置
(4月末まで)
- 15(金) “源流の森” 研究会
- 17(日) 「WE LOVE 白子川の会」の定例活動
- 24(日) 定例活動
- 4/19(金) “源流の森” 研究会
- 21(土) 「WE LOVE 白子川の会」の定例活動
- 28(日) 定例活動、中里郷土の森見学

※運営会議は定例活動の前日です

東映橋付近

「WE LOVE 白子川の会」

白子川で魚とり、川遊び、川そうじ、川さそうじ、川しませんか！



ミニ地引網で魚とり

白子川の源流から3km下ったところに、川に降りられる「テラス」があります。川幅は広くて浅い安全な川です。橋では東映橋、水道橋、三ツ橋あたり。ここで、「WE LOVE 白子川の会」は毎月1回、近くの小学生や中学生が中心になって、川そうじをしながら、魚とり、川遊びを楽しんでいます。地域のみなさんも、ぜひぜひおいでください。一緒に、自然を守りながら、川を楽しみませんか？

【活動日】 毎月第三日曜日
10時～12時（雨天中止）

【服装】 めれてもOKな靴と服装で。胴長を貸します。

- 参加費はありません。TOTO水環境基金の助成金で活動しています。幼児は保護者同伴なら大丈夫です。
- この活動は練馬区の許可を得ています。

【主催者】 白子川源流・水辺の会
事務局＝080-5683-2366/03-3923-8430

（菅沢 博）



トライ⑤

カエル道

源流の「井頭池」にアズマヒキガエルが降りることができれば産卵できるのではないかと、練馬区の許可を得て3月14日にネット製の「カエル道」を設置しましたが、効果はなかったようです。「木製の道」ならカエルは降りたかも……。



講演 1

川は都市の自然空間

—小さな緑の塊をつないで街を豊かに—

講師 吉村伸一 先生

(株)吉村伸一流域計画室 代表



住民は川に何を求めているのでしょうか。アンケートによると、自然が感じられ、風景としての美しさ、気持ちよさを望む声が多いのです。そのためには、治水と環境を統合して考える「多自然川づくり」が大切です。

そもそも、治水は地域の暮らしを支える基盤として行われるはずですが、そうであるならば、もとの姿よりも美しく、気持ちのいい川にしたいものです。

これまでの川づくりは、洪水対策として雨水を一気に海まで流すために、川の断面は定規断面に、河道は直線化されてきました。その結果、川の豊かな営みは失われ、多様な生き物の生息環境が消失しました。コンクリート護岸の単調な河道は生き物を失うと同時に、人と川を隔ててしまったのです。そこで、護岸撤去による川幅の拡幅や河床の拡幅によって、川の営みによる自然環境を創出し、親水空間を作り出す川づくりを推進してきました。

定規断面



片側の護岸を撤去して水辺空間を創出



河床幅を拡幅して水辺空間を創出

受賞 土木学会デザイン賞 最優秀賞 (和泉川/東山の水辺・関ヶ原の水辺) など多数

著作 多自然川づくりポイントブック (日本河川協会、2011、共著) など多数

講演 2

生態学的環境デザインと防災・減災

講師 廣瀬俊介 先生

風土形成事務所 主宰
東京大学空間情報科学研究センター 協力研究員

市街化により失われた生態系・物質循環系の再生と都市整備の両立の可能性を考えます。



◆生態学的環境デザイン

左の写真は、コンクリートの洪水調節池の設計に対し、市民が生態系の豊かな調節池を望み、行政と市民が話し合った結果、自然を活かした設計に変わった例。

(千葉県市川市／大柏川第一調節池)

◆雨水地下浸透を図った環境整備

右の写真は、車道二車線と歩道、または側道の上に浸透側溝を設けた例。

(茨城県龍ヶ崎市／同佐貫停車場線「龍宮通り」)



◇講演後、井頭公園の大型調節池計画について、コンクリートの調節池ではなく自然豊かな調節池にすることができな
いか、両先生と参加者で考えました。

右写真は調節池の規模を縮小した例です。通常の工法では調節池面積 5,400 m² (貯留量 4,312 m³) が必要でしたが、貯留施設併用で面積 400 m² (貯留量 107 m³) の親水公園にしました。(福島県伊達市／公園の街「諏訪野」)



調節池から親水公園へ

◇次ページに「井頭公園の大型調節池計画」の内容と疑問を記します。

受賞 神奈川建築コンクール 最優秀賞 (DNP 創発の杜 箱根研修センター第2) など多数

著作 風景資本論 (朗文堂、2011) など多数

井頭公園の 大型調節池計画 について

東京都は、昨年4月に白子川源流（井頭公園）に大型調節池（規模 254,000 m³）の建設を決めました。調節池の構造は明らかにしていませんが、今までの同規模の実績から、コンクリートボックスの調節池になる可能性が高いと思われます（図-1、図-2 参照）。



図-1 比丘尼橋下流調節池
（規模 212,000 m³／白子川）

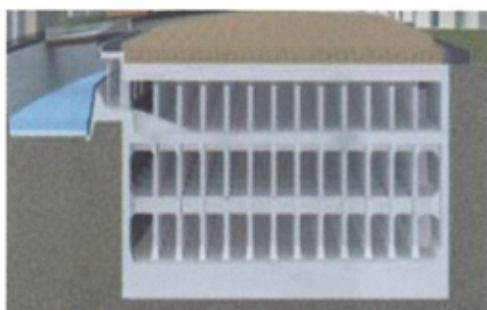


図-2 城北調節池
（規模 250,000 m³／石神井川）

¹ 洗掘（せんくつ）…流水の作用で海岸、河床などの周辺の土砂が削り取られること

² 内水氾濫…降雨が一気に下水管に流入すると処理能力をこえるため市街地で氾濫すること

この大型調節池が建設された場合、地下水脈は破壊され、湧水が枯渇するのではないかと心配しています。また白子川源流は、河床がコンクリート舗装されていないため、かろうじて植生が存在し、生物も生息できる環境になっています。しかし、調節池ができた場合、洗掘¹しないように河床はコンクリートブロックで敷き詰められてしまうでしょう。湧水、そして貴重な生き物が消失してしまう可能性があります。

なぜ、このような大きな調節池が源流に必要なのでしょうか。それは、西東京市の雨水は今まで石神井川に流していましたが、新計画では白子川に流す計画に変わり、西東京市の雨水を白子川源流で受けとめることになったためです。雨水の貯留、浸透、利用のあり方を大胆に発想転換することで、大型調節池の建設回避、または規模の縮小を図る可能性が見出せるのではないかと私は考えます。

大泉地域、西東京市の浸水被害は内水氾濫²です。浸水被害を回避するとともに住環境の整備として、①内水氾濫するそのエリアに貯留施設を整備する、②貯留した雨水を道路に散水して灼熱化するまちを冷やす、③井頭公園の隣接地の都市計画公園予定地を森の公園として雨水の浸透を促進するとともに、市民の憩い安らぎ空間を創出するなど、豪雨対策は河川の治水対策としてのみ捉えるのではなく、様々な観点から〈まちづくり〉として取り組むことが必要だと思います。（岡崎一成）



2011年の震災後、2012年の12月から今日まで、毎月1回白子川源流域での放射線を測定してきました。会報でも2年毎に報告してきましたが、今回、測り始めから現在にいたるまでの6年半の測定値を一つのグラフにまとめてみました

今回、グラフにするに際して、これまでの数値に修正を加えたことが二点あります。まず一点は、この地域は低線量域なので、放射線測定器「ガイガー FUKUSIMA LCD タイプ」(三和製作所)のセンサーが持っている自己ノイズ $0.04 \mu\text{Sv/h}$ を差し引いた値で表示しました。二点目は、2016年8月の下水吐け地点の測定値が 0.61 と記録に残されていたのですが、この値は極端に高く、これまでにないものでした。少し高い数値がでた時には何度か測定していたのですが、この時はこの一回だけの測定なので、単純な記載上のミスではないかと判断しました。今回はこれを改めて 0.16 として扱いました。

6年余測った放射線の値を見て思うこと

震災後1年9か月後から測定を始めましたが、2015年12月までの3年間ほどは、線量は、次第に下がってきたと考えられます。その後の3年余の変化を見てみると、測定方法を変えたこともあり(5地点3回ずつ測定の平均値を、1回ずつの測定に簡略化したので)全体として振幅が目立っていますが、基本的には線量が増える傾向にはなく、大きな変化はみられないと言えます。

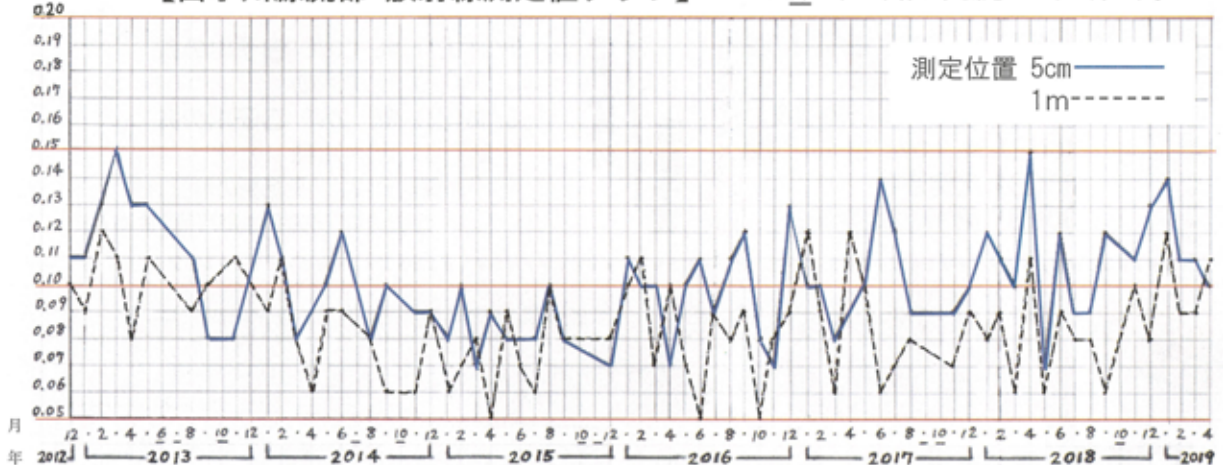
改めてネットで公開されている東京都の直近の空間線量の値を調べてみると、 $0.04 \mu\text{Sv/h}$ 前後と出ており、過去のデータ $0.07 \mu\text{Sv/h}$ と比べると、確かに減少していることが分かります。一方、源流域での計測は、機器の性能や計測の誤差もあると思われますが、この値と比べてみると、高いです。

今後も計測を続けてみようと思います。

単位
 $\mu\text{Sv/h}$

【白子川源流部 放射線測定値グラフ】

※月の下の下線は、測定してない月です。



「定期総会」ですよ! 会員のみなさ〜ん、ぜひ、ご出席ください。

「白子川源流・水辺の会」の活動はいよいよ19年目に入ります。
会員の皆さんが一堂に会して、新しいスタートを切りたいと思います。

第二部では、源流部の水辺環境を破壊するのではと危惧される大型調節池計画、大型公園化計画、都市計画道路に対して、どのように対処すべきか、みなさんで知恵を出し合って、共に検討していく場としたいと思います。

6月30日(日) 13:30~16:45 東大泉地域集会所 (東大泉 7-27-51)

『身近な川の全国一斉調査』に参加しませんか！



～～ 地域のみなさんも、ぜひどうぞ～～



多くの市民や学校の子どもたちによる『身近な川の一斉調査』は、全国で一斉に行われるようになり、身近な環境に関する市民の理解と関心がさらに深まってきています。

この調査により、白子川の様子が詳しくわかります。調査は簡単で楽しいものです。

【日 時】6月2日(日) 9時～12時

9時に大泉井頭公園の井頭橋集合 雨天でも実施

【調 査】水質、水温、水深、動植物、水辺の様子などを調べます。

【服装等】当会より胴長をお貸しします。自転車でおいでください。

【申込先】03-3923-8430/080-5683-2366 すがさわ

5/19(日) WE LOVE 白子川の会

26(日) 定例活動

6/ 2(日) 全国一斉川の調査

16(日) WE LOVE 白子川の会

23(日) 定例活動

30(日) 第19回定期総会

活動予定

これからの

7/21(日) WE LOVE 白子川の会

28(日) 定例活動

8/18(日) WE LOVE 白子川の会

25(日) 定例活動

※運営会議は定例活動の前日です

※“源流の森”研究会は毎月第3金曜です



J:COM「ねりまほっとライン」で白子川源流が紹介されました。

インターネット動画でいつでもご覧になれます。「ねりまほっとライン 白子川」で検索。

定例活動

毎月第4日曜 午後1:30～

どなたでも 川にはいれます！

編集後記

▼源流から3km下流で川活動後に中学生が「活動のおカネはどこから出ているんですか？」と質問。受けている「TOTO助成金」を説明したら納得していた。その質問に定着感を感じた。(ひ)

▼犬の散歩の途中、井頭公園では椅子に座った40人ほどの人が車座で話し合っていた。タウンミーティングのようだ。犬が入ろうとしたら、一人が大声で「犬は入るな」と叫んで、目が覚めた、夢か。(あ)

▼オタマから育て、一緒に引っ越して来たアズマヒキガエル君。時々道に遣い出では、庭に連れ戻され、私たちが長期留守して帰宅した時は、「オカエリー」と出迎えてくれた。カエルも家族だった。(さ)

▼その昔、井頭池ではゆっくりとした時の流れに人々は集い、土器や野菜を洗ったりしていただろう。近年、ヒトは集中豪雨を呼び起こし、まさかここに巨大な調節池が必要になるなんて。(け)

発行 白子川源流・水辺の会
編集 東谷 篤/東谷貞子/菅沢恵子
題字 宮本沙海
発行部数 1,200部
代表 菅沢 博 03-3923-8430
練馬区南大泉1-10-5
suga-lohas@jcom.home.ne.jp
http://www.geocities.jp/sirako_river/
※この会報は年3回発行しています

当会はTOTOグループ「TOTO水環境基金」の助成を受けて活動しています。